

8-4-12 鉄道専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会の開催回数：9回

(2) 鉄道専門委員会セミナーの開催

若手および中堅技術者を対象とした、鉄道に関するセミナーを年2回計画。

・7月3日（月） 協会会議室

「海外での業務経験の紹介」

講師 高橋 靖典氏

株式会社パデコ

参加者 62名

・11月29日（水） 協会会議室

「鉄道橋梁および高架橋の景観設計」

講師 畑山 義人氏

ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社

参加者 60名

(3) 「品質セミナー」のためのエラー事例の収集と分析を実施。昨年に引き続き、委員出身各社からエラー事例を収集し整理した。昨年までの123例に11例を追加し134例とした。

また隔年参加している品質セミナーに講師を派遣した。

(4) RCCM教材の改訂

RCCM 自主学习システム教材の全体の1/4程度の改訂でナレーションも変更する(レベル2)を実施した。演習問題を追加した。

(5) 「報酬積算の手引き」(改訂第11版)に関する改訂および普及活動

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」((一社) 建設コンサルタンツ協会 改訂第10版) を改訂した。改訂第11版は、平成29年6月から配布を開始した。今後もその普及につとめる。特に地方自治体(県、市町村)を中心に説明を実施する。

(6) 「報酬積算の手引き」(改訂第11版)に関する質疑対応

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」((一社) 建設コンサルタンツ協会 改

訂第11版) に対する質疑について対応した。質疑件数は、49件であった。

(7) 鉄道・運輸機構との意見交換会

10月24日(火) 鉄道・運輸機構本社において意見交換会を実施し、鉄道専門委員会としての要望を提案した。

2. 次年度の活動について

次年度の活動としては、継続的な作業として年2回の「鉄道セミナー」開催、エラー事例の収集と分析及び品質セミナーWGの参加、RCCMの自主学习システム教材改訂、「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(第11版)の普及を実施して行く。

また、次年度は鉄道・運輸機構との意見交換会は実施されないが、意見交換会の要望が実現できるように、定期的に打合せを行っていく。

さらにできれば、若手技術者のための鉄道技術に関する小セミナーや現場見学を検討する。

その他、鉄道総研、鉄道・運輸機構等への窓口として、技術標準の改定に伴う資料の収集と展開などの役目を果してゆく。

(鉄道専門委員会委員長 吉村 剛)